

教えて!! 伊万里のツルの里づくり



溝江さん

四万十川・中筋川流域とほぼ同時期にツルの越冬地づくりがスタートした伊万里市。行政がぐいぐいと引っ張ってきたその取り組みは、四万十での取り組みとはまたひと味違っています。スタート時から関わっている伊万里市農山漁村整備課の溝江さんにお話を伺いました!

Q ツルが越冬する干拓地の広さはどのくらいですか?



溝江さん

65haあります(東京ドーム約14個分の面積!)。とても広いのですが、ツルが飛来している間は毎日、伊万里 鶴の会とボランティアの監視員さんがツルを見守り、行動を記録しています。



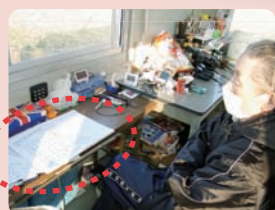
ツル監視小屋。ボランティアの監視員さんが解説もしてくれます。



週末に親子連れなどが見学に訪れることも多く、監視小屋では双眼鏡や図鑑などが借りられます。



書き込まれた線はツルの移動の軌跡。行動の一つひとつを欠かさず記録するそうです。



ボランティアの監視員さんは窓からツルの動きを常にチェック!



干拓地は広すぎて一枚の写真には収まりません!(矢印が監視小屋)

Q 民間との協力体制はどんな感じですか?



溝江さん

警戒心の強いツルを驚かさないように、市民の皆さんには冬場の干拓地への立ち入りの自粛をお願いしています。また、日ごろ有害鳥獣駆除にご協力いただいている猟友会の方とも連携し、干拓地周辺での銃猟は禁止としています。



立入禁止の看板と干拓地をぐるりと囲む外敵進入防止ネット

Q ツルの餌はどのように確保していますか?



溝江さん

上空を飛ぶツルに干拓地に餌があることがわかるように、稲穂の刈残し箇所(約400m²)をつくっています。給餌も実施しており^{*}、くず麦やお米などを与えています。地元の農家さんに虫が付いて売れない米などをわけてもらったりしています。



稲穂の刈残し箇所(伊万里市提供)

^{*}今年度は鳥インフルエンザ問題発生後に給餌を停止しています。

Q 干拓地にはねぐらとなる場所はあるんですか?



溝江さん

ツルは深さ15cm程度の水たまりで寝ますが、近年ではねぐらにふさわしい湿地がほとんどないので、田に水を張って(約1,700m²)、ねぐらをつくっています。



田に水を張っている様子(伊万里市提供)

Q デコイ(模型)設置、効果のほどはいかがですか?



溝江さん

ツルを呼び寄せる目的で置けていますが、それ以外にも、ツルはなにより意識が強いので、干拓地の中に別の群れのツルが入ってくると追い払おうとするんですね。その際に追われたツルがデコイの間に逃げ込んだという例や、群れからはぐれた幼鳥がデコイのそばから離れなかったという話を聞いています。



デコイの設置は地元の子どもたちも手伝ってくれるのだとか。四万十と同じですね!(伊万里市提供)

Q 実験的な取り組みも行っているんですね?



溝江さん

上空を通過するツルをひきつけるため、ツルの鳴き声を空に向かって拡声器で流す試みを行ったこともあります。効果のほどはわかりませんが(笑)。あと、音がうるさいと思われる方もいると思うので、何事も地元の方と相談しながらチャレンジです。

Q これまで市の主導で取り組んできたツルの越冬地づくりですが、市民の反応は?



溝江さん

市の広報誌やホームページ、CATVなどでPRをしているので、取り組みを知っている人は多いと思います。事業を始めた平成15年度に伊万里 鶴の会が発足し、事業に協力してもらっています。子どもたちやロータリークラブなどからの協力もあります。今後も市民みんなで盛り上げていけるように頑張ります!



伊万里市HPのツル関係のページ。飛来情報が充実しています。

はみだしショット



街を歩けば、橋や交差点に伊万里焼がたくさん!さすが焼物の里



伊万里焼の窯元も訪ね、地域の文化や産業についても学びました



「ツル監視員」に体験してみたい!「M.Y.双眼鏡」でツルを観察する当会会員



全員で記念撮影!後ろに見える立入禁止の看板が伊万里の干拓地に来た証拠(笑)